

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：74331

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00950

研究課題名(和文)近代都市における地域共同体の変容に関する歴史的研究 京都市を事例として

研究課題名(英文) Kyoto case study: A historical analysis of local community transformation in modern cities

研究代表者

井岡 康時 (Ioka, Yasutoki)

公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員

研究者番号：60810926

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代の日本における都市共同体の変化を明らかにすることを目的とした。具体的には、京都市東山区で見出された今村家文書の調査と記録を進めた。また、調査の過程で新たに明らかになった史料についても整理を行い目録を作成した。こうした作業をもとに研究を進めた結果、近代初期における京都市周縁部の地域住民の生活状況の変化、周辺に居住する被差別民や貧窮層などマイノリティとの関係の変化などについて明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今村家文書を伝来してきた今村家は都市京都の周縁部に所在する。こうした地域的特性ゆえに、この地域には近世中期以降、多くの人びとが周辺から流入して滞留し、また、被差別民の集落や野非人の小屋が置かれることになった。今日、経済格差の拡大によって増加した生活困窮者、異なる文化や言語を有する人々など、多様な背景を有する人びととの共生のあり方が模索されている。今村家当主に代表される地域の指導者は、こうした多様な住民と関係を持ちつつ、地域の共同利益を守り、創り出すことに力を尽くした。こうした歴史を明らかにしたことは、これからの町づくりを考えていく上で大きな意義があったと考えている。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to analyze and understand important changes in urban communities throughout modern Japan. This investigation thoroughly examines the Imamura family document found in Higashiyama Ward, Kyoto City. As more historical materials were revealed in the process of the investigation, a list of important themes was created. The results of this research show significant changes in the living conditions of local residents living in the periphery of Kyoto City during the early modern period. There are also observable changes in relationships with people experiencing poverty and minorities who have been marginalized in the community.

研究分野：近代の地域史、被差別部落史

キーワード：近代都市 包摂と共生 差別と排除 マイノリティ 町づくり

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### (1) 申請時における研究の背景

21世紀の都市は新たなステージに移行したと認識している。具体的には、経済格差の拡大により生活困窮層が増加し、都市行政において社会福祉に属する課題がより重大になってきている。

かつては、郊外への人口移動が増加したことにより、都市中央部において荒廃・衰退などが進行する、いわゆるインナーシティ問題が都市の重要な社会問題となっていた。しかし、少子高齢化などを背景に、住民が都心に回帰するという新たな現象が生じている。

グローバル化の進行にともない国籍や文化的背景を異にする住民が増加している。差別や排除をとまなわない、旧来の住民との共生空間の創造が課題となっている。

観光による地域経済の活性化は一定の成果をあげてきた。とくに研究対象とする京都においては著しいものがあった。しかし、都市の受容許容範囲を越えたインバウンドの増加が、美化・衛生の保全、文化摩擦の発生などが課題となっている。

以上のような諸課題・諸問題について、時間軸をさかのぼって考察を深め、その解決の道筋を探ることが歴史研究に求められている。すでに1997年に京都市東山区で見いだされた今村家文書があり、これを中核的な研究対象として分析や検討を進めることとした。

#### (2) 申請時における研究の動機

本研究が対象とする京都は中世以来の蓄積をもつ歴史的都市であり、中心部には公家・武家などの支配層、宗教的権威をもつ寺社、豊かな経済力を有する商家、これらの集団を支える小商人や職人がおり、周縁部には被差別民が集落を形成し貧困層が滞留していた。近代以降は観光都市としての正確を強めるとともに周辺には工業生産地域も生まれていった。こうした多様な住民の利害調整をはかりながら、都市行政は近代都市にふさわしい秩序を生み出そうとし、一方、住民は地域の共同利益を創出し、その確保をはかろうとした。

以上のように状況を認識した上で、本研究は次の3点を基本的な動機として進めていった。

近代化の過程において都市周縁部の住民によって進められてきた共同体の形成・更新の内面的契機は何か。

そのことが中世以来の蓄積をもつ共同体の様相をどのように変容させたか。

そうした変容はマイノリティに対する排除もしくは包摂にいかなる作用を及ぼすのか。

このような諸点を解明する作業を通じて、排除や分断がより低減され、包摂や協働などの精神がより豊かとなる新たなコミュニティを、変化し続ける都市のなかに形成する道筋を遠望していきたいと考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は次の3点を解明することにある。

近代の都市周縁部の住民は、都市全体の公共性と折り合いをつけながら地域の共同利益の創出と確保をはかろうとするが、その過程において共同体がどのような変容をとげていくのか。具体的には、研究対象地域を流れている鴨川(賀茂川、加茂川)の浚渫や堤防の管理など河川にかかわる問題についての解明をめざした。

近代における共同体の変容は、被差別民や都市下層などマイノリティとの関係をどのように変えたか、また、そうした関係の変化がいかなる回路を経て排除や包摂につながっていくのか。具体的には、研究対象地域に隣接して所在する被差別部落(崇仁地区)や非人集落、近代以降に出現する在日コリアンの集住地域と、周辺地域との関係についての解明をめざした。

以上のような近代の都市周縁部の住民の動向に、変容しつつも継受されている前近代からの地域の組織や秩序、生活意識などはどのような影響を与えているのか。具体的には、近世から京都の下京の町の一角であった対象地域に形成されてきた自治組織や、この組織を軸とした地域秩序が、近代化の過程のなかでみせた変容の解明をめざした。

### 3. 研究の方法

#### (1) 今村家文書の解読と分析

前述のように京都市東山区の今村家文書は、1997年に見いだされ、以後、その解明と活用を願ってこられた今村家当主をはじめ、地域史に関心をもつ住民、研究者の手によって今村家文書研究会が組織され、3期にわたる調査・研究が進められて約6700点に及ぶ全貌がほぼ明らかとなった。2015年には全体の目録とともに『今村家文書史料集』上・下巻が刊行された。文書は享禄4年(1531)から昭和22年(1947)まで約400年に及ぶものであり、京都の都市史研究、とくに周縁部の歴史を解明する上できわめて貴重な文書群である。これを用いた地域の歴史像の再現作業を進めることとした。

#### (2) 関連する史料の調査と研究

今村家は現在の京都市東山区を南北に走る奈良街道沿いに所在しており、この街道の東側には鴨川が街道と平行して南流している。また、近世においては地域の多くが天台宗寺院妙法

院の領地となっていた。この地域の歴史を解明するためには、街道沿いに展開した流通や商工業に関する史料、鴨川の管理に関する史料について調査、研究することが必要であり、また、近世の領主であった妙法院の史料についても理解を深める必要がある。こうした作業を今村家文書の解読・分析と平行して進めることとした。

#### (3) 被差別民衆の歴史に関する史料の調査と研究

今村家の所在する地域は都市京都の南の周縁部にあたる。そうした地域的性格もあって、域内には近世には穢多村や非人小屋が置かれ、多くの被差別民衆の生活の場ともなっていた。また、奈良街道が通っていたため、この地は京都の南の入口となっており、このため近世後期以降、周辺村落から流入した人びとが生活に困窮して滞留する場ともなっていた。つまり、この地域は被差別民衆や貧困者なども構成員の一角を占めており、こうしたマイノリティにかかわる史料についても収集と調査、分析を進めることとした。

#### (4) 町づくりと史料活用

近年、この地域は京都市の手により再開発が進められており、景観が大きく変貌を遂げようとしている。地域住民の間には町づくりについての問題意識が高く、このような住民の声に応えることのできる史料活用と歴史研究の手法を考える必要があった。地元崇仁地区の歴史に関する史料を精力的に収集し展示活動をおこなってきた柳原銀行記念資料館と連携し、研究成果の活用方法について検討を進めることとした。

### 4. 研究成果

#### (1) 2018 年度

##### 研究活動とその成果

初年度の 2018 年度においては、本研究の中核をなす史料群である今村家文書について、整理を進めるとともに、未撮影分のデジタルデータ化の作業に取り組みほぼ完成することができた。また、今村家文書には多くの絵図が含まれ、近世から近代にかけての地域の図像データとして貴重なものとなっている。その一部はすでに刊行された『今村家文書史料集』のなかで翻刻されているが、その点検を進め、より精密で正確な翻刻図像を示すことができるよう検討を進めた。さらに柳原銀行記念資料館など、これまで地域で進められてきた地域史研究や町づくりの動向などについて地元住民と交流し、史料活用の方法などについて理解を深めた。なお本研究に関連する分野において研究を進めてきた方々を講師として招き、身分に関する情報が記載された絵図の活用方法や、住居の建築様式と差別との関係などについて意見交換をおこなった。

##### 主な研究論文等

梅田千尋「領主さまはお寺さん？—寺院領大仏柳原庄の近世」(『京都市歴史資料館紀要』28号、2018年)

井岡康時「奔走する今村忠次—明治維新と地域の再編」(『京都市歴史資料館紀要』28号、2018年)

小林丈広「京都における地域史研究の課題—今村家文書調査の歩みを手がかりに—」(『日本史研究』678号、2019年)

#### (2) 2019 年度

##### 研究活動とその成果

2019 年度においては、研究対象地域に所在する被差別部落、崇仁地区に注目し、都市京都との間に結ばれた関係と、その変容について研究を進めた。具体的には、公儀役などの内容の検討を通して統治機構との関連をさぐり、皮革製品の供給など生産活動の面から都市経済とのつながりを明らかにした。また、京都市中を流れる鴨川については、定期的に土砂を浚える公共事業が実施されてきたが、この事業に対する被差別民衆もふくむ地域民衆の関与や、その歴史的な位置づけについて検討した。なお、近年、近世・近代の絵図のインターネット公開が進められているが、被差別民衆の集落の名称や所在地に関する情報の公開のあり方が問題になっている。本研究においても明快な見解をもち、必要があれば説明責任を果たすべきであると考え議論を深めた。

##### 主な研究論文等

○小林丈広「地域史を目指して」(『地方史研究』401号、2019年)

○小林ひろみ「大仏柳原庄の加茂川浚(加茂川普請)」(2019年度地方史研究協議会第70回京都大会で報告。のち地方史研究協議会編『京都という地域文化』(雄山閣、2020年)所収)

#### (3) 2020 年度の成果

##### 研究活動とその成果

2020 年度においては、初年度から進めている今村家文書に含まれている絵図の翻刻版の校訂・検討作業を進め、おおむね完了することができた。また、柳原銀行記念資料館所蔵の妙法院文書に、崇仁地区の歴史を知る上で貴重な情報が多数収められていることが判明した。このため、その目録作成と翻刻を進めるとともに、デジタル化をおこなうこととし、撮影を進めて完了した。関係史料の分析を進めるなかで、崇仁地区と京都市中央卸売市場との人的関係が明らかになり、その背景等について検討を進めた。なお、前年度に実施した被差別部落に関する情報発信のあり方についての検討をさらに進め、インターネットにおける研究成果の公表にかかわる問題点についても検討を進めた。

#### 主な研究論文等

- 奥山典子「京都市中央卸売市場と崇仁」(『GLOBE』103号、2020年)
- 小林ひろみ「銭座跡村の成立—近世京都近郊の被差別民をめぐる地域社会の動向から—」(世界人権問題研究センター『研究紀要』26号、2021年)
- 廣岡浄進「都市の再開発と同和地区のジェントリフィケーション:新自由主義と部落差別解消推進法状況」(『部落解放研究』214号、2021年)

#### (4) 2021年度の成果

##### 研究活動とその成果

初年度から進めている今村家文書に含まれている絵図の翻刻版の校訂作業が完了し、その修正版を制作した。また、今村家に所蔵されてきた襖の裏張りに多くの文書が用いられていることがわかり、その解体作業をおこなった。取り出すことのできた文書の内容については現在精査しているところである。2022年は全国水平社創立から100周年となるが、崇仁地区は水平社創立にあたって重要な役割を果たした。こうした史実を踏まえ、1920年代を中心に崇仁地区の歴史像を再現し、水平社運動を地域史のなかに位置づける議論を深めた。さらに部落問題に関連して、2016年に制定された部落差別の解消の推進に関する法律と、崇仁地区をはじめとする京都市内の同和地区に生起している近年の諸事象について研究報告を受け議論を深めた。また継続的に検討してきた鴨川の維持・管理についての研究を深めるため、研究者を招いて、前掲『京都という地域文化』収載の小林ひろみ論文について書評会をおこない、議論を深めた。

##### 主な研究論文等

- 廣岡浄進「部落の地名・人名をどう扱うべきか—大学教育と歴史研究をめぐる—」(『部落解放』813号、2021年)
- 廣岡浄進「古地図と地名について—情報化と部落史研究の課題—」(朝治武他編『続部落解放論の最前線』解放出版社、2021年所収)
- 山内政夫「崇仁町づくりと京都市立芸術大学移転」(『同関教だより』62号、2021年)
- 小林ひろみ「幕末京都の非人小屋「水車」の人々」(世界人権問題研究センター『研究紀要』27号、2022年)

#### (5) 全体的な成果と今後の課題

4年にわたる研究活動により、近世から近代にかけての都市京都の周縁部の変容を明らかにすることができた。都市周縁部は、都市を圍繞する村世界と継続的に交接しており、その結果、困窮層の流入と周縁部への滞留が生じやすい地域となっている、という特性をもっている。また、周縁部であるが故に、被差別民衆などマイノリティの集落が生まれやすく、周辺地域との間に緊張もはらんだ関係が生じやすいことも地域的特性の一つとしてあげられるだろう。主たる研究対象とした今村家文書や妙法院文書は、こうした特性の形成や変容を歴史的に明らかにできる貴重な史料群であり、本研究の成果は今後の都市史研究、とりわけ周縁部の社会史的研究に活かすことができるものとなったと考えている。

研究期間の後半2年は、新型コロナの感染拡大のため、当初予定していた活動の実施が困難になるという事態も生じたが、一方で、パンデミックによって暴露された現代社会の脆弱性を直視するなかから、近世・近代都市史への新たな問題意識も培うことができた。本研究によって、都市京都の周縁部についてのさらに精緻な研究の必要性や、国内外の他都市周縁部の比較研究などが課題として見えてきたと思う。研鑽を続けていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 秋山浩三・梅田千尋	4. 巻 5
2. 論文標題 陰陽道と「歴代組」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『新陰陽道叢書』第五巻 特論	6. 最初と最後の頁 231-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅田千尋	4. 巻 3
2. 論文標題 総論・近世陰陽道研究の成果と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『新陰陽道叢書』第三巻 近世	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 8
2. 論文標題 近代都市と「衛生自治」「貧民部落」をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 -
2. 論文標題 被差別部落の類型と存在形態	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近代の部落問題	6. 最初と最後の頁 199-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 351
2. 論文標題 日本における近代的防疫行政の形成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 2021
2. 論文標題 感染症と差別 一八九〇年代の巡回記録を読む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 2021年度差別の歴史を考える連続講座講演会	6. 最初と最後の頁 155-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林ひろみ	4. 巻 26
2. 論文標題 銭座跡村の成立ー近世京都近郊の被差別民をめぐる地域社会の動向からー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界人権問題研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林ひろみ	4. 巻 27
2. 論文標題 幕末京都の非人小屋「水車」の人々	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界人権問題研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣岡浄進	4. 巻 813
2. 論文標題 部落の地名・人名をどう扱うべきか 大学教育と歴史研究をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣岡浄進	4. 巻 -
2. 論文標題 古地図と地名について 情報化と部落史研究の課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 続 部落解放論の最前線 水平社100年をふまえた新たな展望	6. 最初と最後の頁 434-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山内政夫	4. 巻 62号
2. 論文標題 崇仁まちづくりと京都市立芸術大学移転 - 後編	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同関協だより	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林ひろみ	4. 巻 102号
2. 論文標題 幕末の洪水対策と被差別民 - 近年解説の進む「今村家文書」から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 GLOBE	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林ひろみ	4. 巻 2020年度
2. 論文標題 大仏柳原庄の鴨川浚え(鴨川普請)ー幕末の洪水対策と被差別民ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020年度人権大学講座講演録	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林ひろみ	4. 巻 2020年度
2. 論文標題 幕末の洪水対策と被差別民ー近年解読の進む「今村家文書」から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 2020年度差別の歴史を考える連続講座 講演録	6. 最初と最後の頁 3-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥山典子	4. 巻 103号
2. 論文標題 京都市中央卸売市場と崇仁	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 GLOBE	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣岡浄進	4. 巻 214号
2. 論文標題 都市の再開発と同和地区のジェントリフィケーション政策: 新自由主義と部落差別解消推進法情況	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 39-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 割石 忠典, 鈴木 英生, 花井 十伍, 廣岡 浄進	4. 巻 5号
2. 論文標題 情報化社会と部落史研究の課題：人名、地名、絵図などの公開にふれて（特集 第25回全国部落史研究大会）--（全国部落史研究大会パネルディスカッション）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落史研究	6. 最初と最後の頁 2-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山内政夫	4. 巻 61号
2. 論文標題 崇仁まちづくりと京都市立芸術大学移転ー前編	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 同関協だより	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井岡康時	4. 巻 97号
2. 論文標題 奈良と京都 松井庄五郎の人脈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローブ	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井岡康時	4. 巻 265号
2. 論文標題 ネット時代の歴史研究と成果の公開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ならヒューライツニューズ	6. 最初と最後の頁 4-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 401号
2. 論文標題 地域史を目指して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井岡康時	4. 巻 28号
2. 論文標題 奔走する今村忠次－明治維新と地域の再編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都市歴史資料館紀要	6. 最初と最後の頁 24-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅田千尋	4. 巻 28号
2. 論文標題 領主さまはお寺さん?-寺院領大仏柳原庄の近世	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都市歴史資料館紀要	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 678号
2. 論文標題 京都における地域史研究の課題 今村家文書調査の歩みを手がかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 42-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋元せき	4. 巻 96号
2. 論文標題 「今村家文書」の研究と、地域の歴史遺産継承の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローブ	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 小林丈広
2. 発表標題 近代都市と「衛生自治」 「貧民部落」をめぐって
3. 学会等名 都市史学会大会シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林ひろみ
2. 発表標題 大仏柳原庄の加茂川浚(加茂川普請)
3. 学会等名 地方史研究協議会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林丈広
2. 発表標題 今年度の研究会に向けて・今村家文書研究について 本研究会の課題と関連づけて
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所第9研究例会
4. 発表年 2019年

## 〔図書〕 計1件

1. 著者名 地方史研究協議会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 -
3. 書名 京都という地域文化	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

<p>世界人権問題研究センター年報 (<a href="http://khrrr.or.jp/publication/annual-report/">http://khrrr.or.jp/publication/annual-report/</a>)  研究課題に関する2018年度における定例研究会での研究報告者・報告タイトルの報告(一部)  山内政夫・柳原銀行記念資料館設立の経緯について/小林丈広・今村家文書研究の歩み/秋元せき・「今村家文書」の普及啓発事業と調査・研究の課題について / 田良鳥哲・地図と身分制研究/土本俊和・小屋から居小屋地へ 近世京都の拡大過程における銭座跡の位置 /中川理季・『今村家文書史料集』添付の絵図(翻刻)の検討箇所について</p> <p>研究課題に関する2019年度における定例研究会での研究報告者・報告主題の報告  松尾奏子・「諸式留帳」からみる近世前期の六条村/廣岡浄進・デジタルアーカイブスにおける絵図・古地図の公開をめぐる諸問題/小林ひろみ・大仏柳原庄の加茂川浚(加茂川普請)/河内将芳・同時代史料からみる戦国時代の今村家/山内政夫・旧崇仁小学校資料と柳原銀行記念資料館資料保存研究会の展望について</p> <p>研究課題に関する2020年度における定例研究会での研究報告者・報告主題の報告  身分・部落差別に関する研究成果の公開のあり方 掲出媒体・人名・地名などに着目して(関係者全員)/『今村家文書史料集』付属絵図の検討(関係者全員)(2回実施)/奥山典子・京都市中央卸売市場と崇仁/小林ひろみ・中間報告「柳原銀行記念資料館所蔵 妙法院関連文書」の目録・翻刻作成について</p> <p>研究課題に関する2021年度における定例研究会での研究報告者・報告主題の報告  山内政夫・全国水平社創立者桜田規矩三/廣岡浄進・都市同和地区の再開発と部落差別解消推進法 部落史研究をめぐる一課題として/吉田ゆり子・書評・地方史研究協議会編『京都という地域文化』</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 丈広 (Kobayashi Takehiro)  (60467397)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員  (74331)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	秋元 せき (Akimoto Seki)		
研究協力者	小林 ひろみ (Kobayashi Hiromi)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	関口 寛  (Sekiguchi Hiroshi)		
研究協力者	廣岡 浄進  (Hirooka Kiyonobu)		
研究協力者	山内 政夫  (Yamauchi Masao)		
研究協力者	今村 壽子  (Imamura Kazuko)		
研究協力者	梅田 千尋  (Umeda Chihiro)		
研究協力者	奥本 武裕  (Okumoto Takehiro)		
研究協力者	河内 将芳  (Kawauchi Masayoshi)		
研究協力者	重光 豊  (Shigemitsu Yutaka)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	西山 剛  (Nishiyama Tsuyoshi)		
研究協力者	稲野 明英  (Inano Akihide)		
研究協力者	奥山 典子  (Okuyama Noriko)		
研究協力者	松尾 奏子  (Matsuo Kanako)		
研究協力者	中川 晃  (Nakagawa Akira)		
研究協力者	中川 理季  (Nakagawa Riki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------